

指定管理者による管理運営の実施状況報告

- 1 施設名：福岡県青少年科学館
- 2 指定管理者名：福岡県青少年科学館運営グループ
- 3 指定期間：平成29年4月1日～令和4年3月31日
- 4 施設設置目的：青少年の科学に関する知識の普及啓発を図り、もって創造性豊かな青少年の育成に寄与する。
- 5 管理運営についての点検結果（平成30年4月1日～平成31年3月31日）
 - (1)点検方法：事業報告書、現地確認、ヒアリング等をもとに、指定管理者による管理運営の実施状況の点検を行った。
 - (2)点検結果：別添のとおり

1 管理運営状況総括表

大項目	事業計画(取り組みや改善の内容等)	管理運営の概要
① 公共性(公益性)の確保	<ul style="list-style-type: none"> 国や福岡県の方針を踏まえた事業展開を行う。 利用案内の配布による学校利用の促進や、科学体験による効用の周知を行い、学校教育との連携を図る。 県民の学習ニーズに応じた学習機会の提供に努め、地域との連携を図る。 高齢者・障がいのある人に対する配慮を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 国の科学技術基本計画及び福岡県の教育施策を踏まえたプログラム構築を行い、小中学校を中心に多くの団体の受入れを積極的に行った。また、最先端のデジタルインスタレーションとそれらを作り出すプログラミングについての講演やサイエンスショー等、科学を身近に感じることのできる「おもしろサイエンスフェア」を実施した。 学習指導要領に準拠した展示やプラネタリウム学習番組の放映を行った。 「科学館ニュース」20万部を年4回、特別展のポスター・チラシを年2回、学校に配布し、積極的に利用促進を図った。 小中学校の教員等を対象に、科学工作や星空観察等についての指導法を提供する「指導者支援事業」(2回)を実施した。 「市民天体観望会」(12回)、「星空教室」(9回)、「ファミリープラネタリウム」(6回)等、子どもから大人まで参加できる各種教室を実施した。また、「サイエンス教室」(12回)、「ものづくり工房」(8回)など、内容を充実させ、計画的に行った。 県立社会教育施設や地元久留米市等と連携を図り、イベントや科学・天文事業への講師派遣等(ネットワーク推進事業)(25回)を行った。また、特別展においても、地元の大学や高校との連携による企画展やイベントを開催し、ネットワークづくりに努めた。 必要に応じ、身体障がい者専用とされていない駐車区画を身体障がい者用の区画に変更した。
② 施設利用及びサービス向上	<p>ア 利用の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 青少年に科学に対する興味・関心を抱かせるため、楽しみながら科学を体験できる事業展開を行う。 積極的な情報の発信に努め、行事や科学情報を地域に発信する。 <p>イ サービス・利便性の維持向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏季休業期間など繁忙期における常時開館を行い、サービス向上に努める。 プラネタリウムの放映番組を多様化し、放映回数を増やすことにより、より利用者ニーズに対応できるようにする。 積極的にボランティアを活用し、利用者サービスに努める。 事業効果の検証を行い、サービス向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「サイエンス教室」(12回)、「ものづくり工房」(8回)、「科学工作教室」(146回)、「おもしろサイエンスフェア」(3日間)等を実施した。 特別展(2回)、作品展(1回)、巡回展(1回)、プラネタリウム学習番組(14本)、「市民天体観望会」(12回)、「星空教室」(9回)、「星と音楽のタベ」(3回)、「ファミリープラネタリウム」(6回)を実施した。作品展は、「小・中学生理科研究コンクール」として実施し、興味・関心を高め、出展作品の質の向上に努めた。 サイエンスモールinくめにおいて、大学や高等専門学校で実際に研究されているロボット等にもふれる事業を実施した。 近隣施設間で互いの取組に関する情報交換を細かに行い、共同で広報リーフレットを配布したり市内のイベントに参加したりするなどした。 全国科学館連携協議会等と連携して巡回展を開催した。また、多摩美術大学 非常勤講師 藤本 直明氏を講師に招き、「プログラミングで作品をつくらう」と題した科学講演会を開催した。 県内及び近隣県の小中学校、マスコミ、旅行会社、公共交通機関等に対しても積極的な広報活動を行った。 夏季・春季休業期間は休まず毎日開館し、サービス向上に努めた。 学習番組の放映時間について柔軟な対応をするとともに、一般番組については、平日は2回、日曜・祝日は7回、土曜及び夏季・春季休業期間は6回放映を行った。また、新たに小学校低学年向け学習番組を追加した。 「天文ボランティア養成講座」(4回連続)を実施しボランティアの育成を図るとともに、「科学工作教室」(146回)、「ものづくり工房」(8回)、「市民天体観望会」(12回)などにおいて積極的にボランティアを活用した。平成30年度のボランティア登録者数は科学ボランティア20名、天文ボランティア32名であった。 入館者アンケートを常置するとともに、各事業毎のアンケート調査を実施し、結果の分析・検討を踏まえた改善策が事業運営に反映されるよう努力した。また、車椅子の貸し出し等、障がいのある方、高齢者及び幼児連れの家族等に配慮した接客に努めた。

大項目	事業計画(取り組みや改善の内容等)	管理運営の概要
③ 経営(収支)改善	利用者により身近に親んでもらえるよう、利用料金の適正化を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理料:261,179千円(対前年度比99.8%) 個人の展示会場入館料400円、プラネタリウム料金600円を維持する一方で、割安なセット券料金(700円)を引き続き販売し、利用者へのサービスの維持向上に努めた。 利用料金収入:目標額51,000,000円、実績額48,163,010円(対前年度比111.9%) 利用者数:目標数318,700人、実績数352,115人(対前年度比116.7%)
④ 職員確保方策及び健全な財政基盤	科学館は学校教育との関わりが密接であることから教育職員を配置する。また、展示事業においては学芸員資格を有する人材を配置する。	<ul style="list-style-type: none"> インストラクター17名中、教員免許取得者4名、学芸員資格取得者2名
⑤ 施設管理上の個別事項		<ul style="list-style-type: none"> 開示請求については、財団情報公開規程(県条例に準拠)に基づき、適切に情報公開を行っている。 企画運営会議を定期的実施し、安全管理、展示内容及び事業の分析、検証を行い、改善を図った。 消防訓練、AED研修、普通救命講習等を実施した。 始業時、終業時点検を実施し、事故回避に努めた。 <p>建物、展示物に対する火災保険、施設賠償責任保険、エレベーター保険、各種教室参加者に対する傷害保険、自動車保険に加入した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全対策・危機管理に関する取組については、自家発電設備の法定点検を行った。

2 点検結果

<input type="checkbox"/> A+ (提案内容を上回った) <input checked="" type="checkbox"/> A (提案内容をやや上回った) <input type="checkbox"/> B (概ね提案内容どおり) <input type="checkbox"/> C (提案内容をやや下回った) <input type="checkbox"/> D (提案内容を下回った)	<p>【総合コメント】</p> <p>事業計画に示された方針に即して適切に運営されており、利用の促進、サービス・利便性の維持向上が図られている。</p> <p>利用者の興味関心を高める魅力的な特別展や科学講演会を実施するとともに、科学教育普及事業の「ものづくり工房」では小・中学生を対象に、新しい学習指導要領で必修化されたプログラミングの教室を実施したほか、科学講演会においても小学生以上を対象にプログラミング学習を行うなど、更なる内容の充実を図っている。また、ボランティアの育成や積極的な広報活動、近隣施設と連携した取組を行う等、利用促進・科学教育の普及に努めている。</p> <p>また、夏季及び春季休業中の全期間閉館や通年でセット券販売を引き続き行い、サービス・利便性の維持向上を図っている。</p> <p>平成29年度中に常設展示場の更新工事を行い、触って学べる展示物を増やしたり、科学実験ショーを行うステージを広い吹き抜けにするなど、より多くの人が科学に触れ楽しく学べる工夫をし、平成30年4月14日のリニューアルオープンに向けて積極的な広報活動を行った結果、入館者数は352,115人で開館以来最高を記録した。それに伴い、利用料金収入も、目標額には届かなかったものの29年度の実績を大きく上回った。今後もさらなる入館者数増と利用料金収入の確保に向けた取組を期待したい。</p>
--	---